

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理演習 I	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	文献や資料の十分な収集、定性的又は定量的なデータの統計解析は、新たな福祉ニーズの発見や既に提供されているサービスの適切さなどを評価するために重要な手段である。ここでは、初心者を対象にインターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理などを学び、演習を主体に学修していく。	
授業の到達目標	インターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理方法の習得を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。		1
「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。		1
「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。		1
「著作権について」 文化庁のWeb 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。		1
「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。		1
「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。		1
「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。		1
「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。		1
「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。		1
「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。		1

「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。	1
「総合演習」 本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。	1
レポート作成、添削指導	15
	計 30
	授業単位数 2

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	文章表現	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点を置いて学修していく。	
授業の到達目標	文学的表現や美文調の修辞等ではなく、簡潔で明快な表現法を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	前田安正『きっちり！ 恥ずかしくない！ 文章が書ける』（株）すばる舎。	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。 いま、文章力がものすごく必要になっている。仕事でも私生活でも、書く機会が増え、ビジネス上の報告書でも近年、いちだんと的確な説明が求められるようになった。三段構成のレポートを参考にして、レポートの形式をまず理解する。		1
レポートで必要とされる文章を知る（テキスト『巻末：起承転結』） 三段構成はコンパクトだが、慣れたら、もう一段ハイレベルな書き方をマスターする。代表的なのは起承転結の四段構成である。「起」立ち上げる。投げかける。「承」受け継いで、進展させる。「転」場面や話題を転じ、趣を変え、変化をつける。「結」全体をまとめる。結ぶ。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 1～5「文章の基本構造：主語と述語をしっかりと対応させる」 一つの文にいくつもの内容を盛り込むと、主語と述語が入り交じり文意が通らなくなることがある。「一つの主語に述語は一つ」を意識して、主語と述語をしっかりと対応させるようにする。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 6～10「助動詞、受身表現、読みやすい文章の特徴を知る」 読者は文を読みながら情景をイメージしていく。同様の言葉を連ねるとそれが余計な情報となって、読者は情景を描きにくくなる。また、「れる」「られる」などの助動詞には、受身、尊敬、可能など様々な意味があるので、場面に合わせて使い方を覚えて、読みやすい文章にする。		1
環境問題に関するDVD 鑑賞と感想文作成 温暖化はこもない、「雨が滝のように降り、傘が役に立たず、車の運動が危険になるような」1時間の雨量が50ミリ以上の「ゲリラ豪雨」が、近年の10年ごとに2割ほど増え続けている。CO <sub>2</sub> の排出量から、温暖化はこもなう「ゲリラ豪雨」を8年前に予測したNHKスペシャルを見て、感想文を作成する。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 11～17「文の要素や必ずしも過去を表わさない過去形を学ぶ」 一つの文にたくさんの要素を入れると、内容が交錯して言いたいことが伝わらない。書くべき要素を整理し、時間の経過も分かりやすい文章にする。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 18～20「読点の打ち方」 「。」「、」「読点（とうてん）」という。句点は文の終わりに付けるので、間違えることはほとんどない。ここでは文の要素を見ながら、読点をどこに打つといいか、を考える。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 21～26「『てにをは』を正しく使って文章を書く①」 主語を表すと言われる助動詞には「は」がある。ところが、「は」は必ずしも主語を表わさないので、「は」の役割について学ぶ。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 26～32「『てにをは』を正しく使って文章を書く②」 「主題や課題の提示」を表す助詞「は」を使った文は、主題の説明や課題の解答を書かなくてはならないので、冗長になりやすい。そこで、「は」の×文の語順について考える。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 33～37「『書き言葉』と『話し言葉』を区別して、日本語の正しい書き方を覚える①」 「こそあど」とは、語の最初に「こそあど」が×指示語のことである。意味を理解して使うと、内容を端的に言い表すことができる。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 38～44「日本語の正しい書き方を覚える②」 「する」と「させる」の違い、否定表現の役割、「しかし」の働き、などについて考える。		1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』：Lesson 45～47「日本語の正しい書き方を覚える③」間違った敬語、間違えやすい慣用句、数字表記の基準、などについて学ぶ。		1

レポートに関するパワーポイント講義の後、ポイントを押さえてレポートを作成するレポートに関する講義の後、レポートの形式を念頭に入れて、下書きを始める。	1
文章・表現・形式を点検する レポートの下書きを完成させ、文章・表現・形式をチェックする。特に、各文章の主語と述語がしっかり対応していることを確認する。	1
レポートを自己評価する 主語と述語がしっかり対応していることを確認した後、レポートを清書し、自己評価する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会福祉入門	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。	
授業の到達目標	我が国の社会福祉法制や社会保障制度の体系等についての知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	大島侑、他『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉①社会福祉概論』 ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会福祉とは何か(教科書pp.12-33, pp.75-99 参照) 広義・狭義の社会福祉について理解するとともに、社会福祉の目的、理念、対象、主体についても理解する。社会福祉理論の展開については、ヨーロッパと日本に分けて学ぶ。社会福祉の対象については、救貧法の時代、社会事業の時代、現代に分けて学ぶ。社会福祉の対象把握を学ぶ際には、ニーズの視点で考える。主体については、政策主体・経営主体・実践 主体として理解する。		1
イギリスにおける社会福祉の発達(教科書pp.34-39 参照) 福祉国家づくりに世界で最初に取り組んだイギリスにおける社会福祉の歴史について、エルザバス救貧法の成立からベリントン報告書の登場までの間を、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。		1
アメリカにおける社会福祉の発達(教科書pp.39-42 参照) 専門職としての社会福祉援助を発達させたアメリカにおける社会福祉の歴史について、ソーシャルワーク確立以前とソーシャルワーク確立期に分けて、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。		1
日本における社会福祉の発達(教科書pp.42-54 参照) わが国日本における社会福祉の歴史について、明治時代の救貧事業から転換期(2000 年代初頭)に至るまで、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。		1
わが国の社会福祉制度の展開(教科書pp.99-109 参照) わが国の社会福祉の法制度の概要、歴史、法体系について理解した後、介護保険法などの現行法について、1980 年代以降の社会福祉の制度改革の流れのなかで正しく理解する。		1
わが国の社会福祉行政(教科書pp.109-115 参照) 社会福祉の行政について、社会福祉行政のしくみ、福祉事務所と社会福祉主事、社会福祉事業、法定受託事務と自治事務について、順をおって学ぶ。		1
社会福祉援助とソーシャルワーク、援助の原則(教科書pp.124-127, pp.130-135 参照) 社会福祉援助とソーシャルワークについて、「社会福祉士及び介護福祉士法」やE.グリーンウッドの理論などを通して学ぶ。その後、F.バイステックによるケースワークの原則など、社会福祉援助において重要な原則についていくつか検討する。		1
ソーシャルワークの種類(教科書pp.135-141 参照) ソーシャルワークの種類について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、その他の方法(ソーシャルアクション、ソーシャル・リサーチ、ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション、ソーシャル・プランニング)に分けて学ぶ。		1
わが国の高齢者福祉の現状(教科書pp.144-149 参照) わが国の高齢者福祉の現状について、高齢者の生活問題、女性と介護、介護の社会化への動きについて学ぶ。また、介護保険制度、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン21などについても学ぶ。		1
わが国の児童福祉の現状(教科書pp.149-152 参照) わが国の児童福祉の現状について、管理教育、体罰、いじめ、家庭内での児童虐待など、さまざまな問題について社会的背景から理解し、少子化の社会的影響、子どもの権利条約の要点について学ぶ。		1

わが国の障害者福祉の現状(教科書pp.152-154 参照) わが国の障害者福祉の現状について、障害の社会的定義をWHO(世界保健機関)の定義からとらえ、障害者の生活問題、ノーマライゼーションの要点について学ぶ。	1
地域福祉活動の重要性(教科書pp.154-157 参照) 近代化の進展に伴うコミュニティの崩壊に起因するさまざまな問題を理解し、地域福祉の目指すものについて学ぶとともに、地域福祉活動の重要性について考える。	1
貧困問題と社会福祉(教科書pp.157-159 参照) 社会福祉の出発点としての貧困問題について、イギリスとわが国を中心に、17世紀以降の歴史的背景と現状について取り上げる。	1
社会福祉士及び介護福祉士法(教科書p.125, p.168 参照) 社会福祉士及び介護福祉士法制定の理由とその経緯について明らかにするとともに、同法の意義についても学ぶ。その後、同法において、両国家資格に関する規定、課せられている義務などについて学ぶ。	1
社会福祉士・介護福祉士の職場と福祉専門職に求められる資質(教科書p.86,p.168 参照) 社会福祉士・介護福祉士が活躍する職場(施設・機関)について具体的に学ぶ。また、利用者のニーズに適切に応えるために、福祉専門職ごとのような資質が必要となるのか、また、どのような学修をして、そうした資質を身に付けていくべきかについても考える。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会福祉原論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史(社会事業成立以前、社会事業成立期、戦後) 社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学修する。	
授業の到達目標	わが国の社会福祉政策や福祉サービス等の知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規。	
授業上の注意点		
<b>授業計画（内容）</b>		<b>コマ数</b>
社会福祉の概念と枠組み 社会福祉は人間の生老病死とその課題に対応して、いろいろな格好で支援していく枠組みをもっている。	1	
社会福祉と関連諸施策 社会福祉の思想と倫理 社会福祉と社会保障、国民保健サービス、住宅、雇用などの関連諸施策との関わりが大切である。	1	
日本における社会福祉の史的展開：わが国の近代、現代の社会福祉 欧米における社会福祉の史的展開：イギリスなどの社会福祉史について わが国やイギリスの社会福祉の展開過程と歴史とを吟味しなければならない。	1	
社会福祉の援助対象 社会福祉のニーズ 社会福祉の援助対象は、当初においては貧困、疾病などであったが、次第にそれらを担う人びとのニーズとして理解されていく。	1	
社会福祉政策と制度体系 社会福祉の法制度 憲法の生存権(第25条) 幸福追求権(第13条)といゆる社会福祉六法の法制度が重要である。	1	
社会福祉の行政 社会福祉の財政 あわせて社会福祉行政財政というが、国主導から近年では市町村主導へと変化している。	1	
社会福祉と民間福祉活動 社会福祉法人、特定非営利活動法人(NPO)、福祉企業、ボランティアなどの民間福祉活動がある。	1	
社会福祉援助の意味(相談援助) 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術などの相談援助の仕方がある。	1	
社会福祉援助の方法 傾聴、共感、洞察といった人間関係の技法がとくに重要である。	1	
関連諸サービスとの連携 社会福祉は、所得保障、国民保健サービス、住宅、雇用などと連携していくことが求められる。	1	

<p>社会福祉機関の組織と運営</p> <p>福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所などにおいて相談する。</p>	1
<p>社会福祉援助の利用と支援</p> <p>社会福祉援助はあくまでも利用者主体であり、援助者はなるべく側面的援助に徹すべきである。</p>	1
<p>社会福祉援助の評価システム</p> <p>社会福祉の専門性: 社会福祉専門職の諸資格、社会福祉士</p> <p>社会福祉援助の専門性を十分に評価し、専門的に水準を高める必要がある。</p>	1
<p>戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性</p> <p>社会福祉の国際動向(1)イギリス、アメリカの社会福祉の動向</p> <p>社会福祉の国際動向(2)ドイツ、北欧、アジアの社会福祉の動向</p> <p>世界の国々は、大きく低福祉低負担、中福祉中負担、高福祉高負担の3 類型に分けられる。</p>	1
<p>21 世紀の社会福祉の展望</p> <p>世界の多くの国々は少子高齢化に向かっており、それぞれの国々の協力体制が必要である。</p>	1
<p>レポート作成、添削指導</p>	60
	計 75
	授業単位数 5

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	人体の構造と機能及び疾病	
担当教員の実務経験	看護師経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	近年、医学・医療に関するニーズは高まっており、医療、介護、保健、福祉といった専門的分野はもちろん、教育や一般社会組織の現場でも最低限の知識と技術が要求される。本科目では人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識の習得を目的とする。	
授業の到達目標	生活習慣病や感染症等の病気についての理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病』中央法規。	
授業上の注意点		
	<b>授業計画（内容）</b>	<b>コマ数</b>
イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどうか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。		1
心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要。体液・血液の性状。呼吸器系。循環器系。機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。		1
心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。		1
心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ。		1
心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。		1
疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。		1
疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。		1
疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の3原則をもとに、予防対策について考察する。		1
疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5、ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。		1

<p>疾病と障害⑤: 加齢と老化(老化性疾患、認知症、生活不活発病)</p> <p>加齢を定義し、受精・分化・成長・成熟・老化について、段階ごと理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。</p>	1
<p>疾病と障害⑥: 老化性疾患(骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など)</p> <p>高齢者に多い疾患(老化性疾患)のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。</p>	1
<p>疾病と障害⑦: ストレス性疾患、免疫異常、難病</p> <p>ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。</p>	1
<p>日本人の健康状態と寿命: 現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測</p> <p>平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。</p>	1
<p>健康づくり: 健康度の向上、健康寿命延長のための活動</p> <p>老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する。</p>	1
<p>最新の医学情報</p> <p>生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。</p> <p>総括医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。</p>	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	高齢者福祉論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	急速な高齢化の進展に伴い21世紀半ばには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉の社会的背景について考察する。また、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学修し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。	
授業の到達目標	介護保険制度や福祉サービス、高齢者の人権問題等の知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。	
授業上の注意点		
<b>授業計画（内容）</b>		<b>コマ数</b>
高齢者のイメージについて肯定的なイメージと否定的なイメージに区分し、それぞれの具体的な内容について学修する。		1
ライフサイクルから見た高齢者に対する理解や特徴(テキストpp.10-23) 高齢者は若者と比べ、身体的、心理的、社会的にどのような特徴があるのかについて学修する。		1
少子高齢社会と社会的問題(テキストpp.30-40) 少子高齢社会とは、日本の少子高齢化の特徴、少子高齢化の要因、高齢者と家族の状況などについて学修する。		1
高齢者を取り巻く諸問題(テキストpp.41-59) 諸問題のなか健康、介護、経済的問題、生活意識、生きがい問題などについて学修する。		1
高齢者保健福祉制度の歩み(テキストpp.77-85) 戦後以来日本政府が高齢者のため行った政策・制度をマクロレベルで検討し、高齢者福祉の歩みを理解する。		1
高齢者支援関連法(老人福祉法)(テキストpp.94-98) 老人の定義から始め、福祉法の理念と目的、内容、サービスなどについて学修する。		1
高齢者支援関連法(高齢者の医療の確保に関する法律)(テキストpp.99-105) 老人保健法の成立背景から、その内容について学修する。		1
高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法と権利擁護制度)(テキストpp.88-93) 高齢社会対策基本法と成年後見制度の全体の仕組みと重要事項について学修する。		1
高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)(テキストpp.106-114) 高齢者虐待の種類や虐待通報があったとき、その対応について学修する。		1
介護保険法① 介護保険制度の全体像や制度成立の背景、または理念などの社会的意義について学修する。テキストp.125を参考し、制度の全体像について理化する		1
介護保険法②(テキストpp.137-145・pp.154-159) 制度の仕組みのなかで特に、認定のプロセスと重要な内容(保険者・被保険者、財政など)について学修する。		1
介護保険法③(テキストpp.130-136) 介護保険法が改正された理由とどのような内容に改正されたのかについて介護給付サービスを中心に学修する。		1

介護保険法④(テキストpp.189-204) 介護保険制度から利用できるサービスにはどのようなものがあるか、サービス利用のため必要なことについて学修する。	1
介護保険法⑤(テキストpp.180-188) 介護保険と関連し、専門職にはどのような職種があるか、具体的な仕事の内容について学修する。	1
高齢者を支援する組織(テキストpp.216-234) 高齢者を支援する組織(行政、第3セクター、ボランティア活動など)にはどのような機関があるか、それぞれが高齢者福祉のために果たしている役割について学修する。	1
レポート作成、添削指導	15
	計 75
	授業単位数 5

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ	
担当教員の実務経験	社会福祉協議会勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [       ] ・ 演 習 [   ○   ] ・ 実 習 [       ]	
授業の概要	<p>ソーシャルワークにおけるニーズについて理解し、地域社会にあるニーズについて考察を深める。                  さらに、地域社会の診断、ニーズの予測、地域ニーズの探索から地域アセスメント、地域福祉支援計画を作成することを通して、地域における包括的支援方法を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握</li> <li>・地域福祉の計画</li> <li>・ネットワーキング</li> <li>・社会資源の活用、調整、開発</li> <li>・サービスの評価</li> </ul>	
授業の到達目標	ソーシャルワークにおけるソーシャルワーカーの役割を理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「はじめての社会福祉」編集委員会『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会福祉(Social Welfare)とは何か、また社会福祉援助活動について(教科書pp.2-10) 社会福祉の定義を根底に、実践活動の分類について理解する。		2
社会福祉援助活動の共通展開過程について(1)教科書pp.15-21) 直接援助活動の過程について理解を深める。		2
社会福祉援助活動の共通展開過程について(2)教科書pp.22-26) 間接援助活動の過程について理解を深める。		2
個人のニーズについて(1)教科書pp.28-31) 「ニーズ」とは何かについて理解を深める。		2
個人のニーズについて(2)教科書pp.32-38) マズローの「ニーズ段階説」について理解を深める。		2
個人のニーズについて(3)教科書pp.38-39) アルダーファーのERG 理論について理解を深める。		2
福祉ニーズについて(教科書pp.40-52) 社会福祉における「ニーズ」の捉え方と分類について理解する。		2
コミュニティとその診断(1)教科書pp.53-55) 「コミュニティ」の定義について理解する。		2
コミュニティとその診断(2)教科書pp.56-66) 地域社会の診断について理解を深める。		2
地域社会におけるニーズ探索とその段階について(教科書pp.67-75) 地域におけるニーズの探索とそこでのソーシャルワーカーの役割等について理解する。		2
現地調査の実施方法(教科書pp.76-86) 調査対象者へのアプローチの方法について理解する。		2

計画立案と満たされていないニーズ(教科書pp.87-98) 「満たされていないニーズ」とは何かを理解し、それに対する対応を考える。	2
計画の実践(教科書pp.98-109) 立案された計画の実践方法、社会福祉援助活動の実践について理解を深める。	2
評価の方法(教科書pp.109 -118) 実践評価の方法について理解する。	2
成果発表について(教科書pp.121-132) 実践報告の意義と方法について理解する。	2
	計 30
	授業単位数 2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ	
担当教員の実務経験	社会福祉協議会勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、要援護者に対する専門的援助の基礎を学修する。 ア)自己覚知 イ)基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ)基本的な面接技術の習得	
授業の到達目標	相談援助の理論と方法を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。	
授業上の注意点		
<b>授業計画（内容）</b>		<b>コマ数</b>
「人」に関する理解(1) 事例を通じて「人」についての理解を深める。		2
「人」に関する理解(2) 「クライアント」とはどのような「人」か？について理解を深める。		2
「人のこころ」の理解(1) 他者のこころを理解する。		2
「人のこころ」の理解(2) 自己のこころを理解する。		2
「人の気持ち」の理解(1) 他者の気持ちを理解する。		2
「人の気持ち」の理解(2) 自己の気持ちを理解する。		2
「人の行動」に関する理解(1) 他者の行動について、実習記録を題材に理解する。		2
「人の行動」に関する理解(2) 他者の行動について、面接を想定し理解する。		2
「人の行動」に関する理解(3) 自己の行動について理解する。		2
相談援助における面接の目的と特性 事例をもとに面接の特性について理解を深める。		2
面接の基盤 事例をもとに共感や支持といった面接の基盤を理解する。		2
面接における基本的応答技法(1) 面接において用いる応答技法の種類と目的について理解する。		2
面接における基本的応答技法(2) 事例を通じて基本的応答技法の使い方について実践的に理解する。		2

面接の展開 事例を用いて、面接をどのように展開するかを学ぶ。	2
非言語的コミュニケーション その活用と意義、効力について理解を深める。	2
	計 30
	授業単位数 2

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（共通科目Ⅰ）	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年／保育・福祉・心理学科 社会福祉コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	福祉士としての活動に求められる基礎領域についての総合的な学習を通して、福祉領域での活用に必要な基礎的理解を深めるとともに、福祉士としての視点の基礎を培う。	
授業の到達目標	福祉職共通の基礎領域としての、身体生理、心理学、社会学に関する福祉領域で必要となる知識や方法を概観できる。また、福祉士としての視点の基礎を理解できる。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「共通科目 受験ワークブック」 中央法規「福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	共通科目「人体の構造と機能及び疾病」「心理学理論と心理的支援」「社会理論と社会システム」の各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
	授業計画（内容）	コマ数
	1.人の成長・発達	1
	2.心身機能と身体構造の概要	1
	3.国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要	2
	4.健康のとらえ方	2
	5.疾病と障害の概要	2
	6.リハビリテーションの概要	2
	7.人の心理学的理解	2
	8.人の成長・発達と心理	2
	9.日常生活と心の健康	2
	10.心理的支援の方法と実際	2
	11.現代社会の理解	3
	12.生活の理解	3
	13.人と社会の関係	3
	14.社会問題の理解	3
	計	30
	授業単位数	2